「今後の県立高校に関する地域検討会議（第２回）」記録要旨
【盛岡ブロック②　八幡平市、岩手町、葛巻町、矢巾町】

平成 27 年８月７日（金）
岩手県公会堂　２階 26 号室

【觸澤　葛巻町副町長】

・地方創生や総合戦略において各分野がバラバラに展開するのではなく、高校の存続も含めて考えていかなければならない。そのように考えたとき、高校再編は地方創生という流れに逆行しているように感じるが、県としての考えを伺いたい。

【県教委】

・県では教育の中で地方創生に向けて人材育成を大きな柱として考えている。高校再編は地方創生に逆行するのではないかとのことであるが、再編計画は地域の方々の意見を伺いながら策定していくものである。今後の高等学校教育の基本的方向を４月に改訂し、数の論理等による機械的な統合はせずに、話し合いを十分に行ったうえで進めていくものであることを理解いただきたい。

・地域における高校の存在意義は大きいとの意見をいただいているが、県教委としては、そのことと共に、子ども達にとってより良い学びの環境はどうなのかということも十分考えながら進めたいと考えている。具体的には進路実現、人間関係の構築、部活動の活発化等の面から小規模校を存続する場合の魅力づくりについて一緒に考えていく必要があり、意見交換しながら再編計画の策定を進めていきたい。

【觸澤　葛巻町副町長】

・葛巻高校は平成 14 年度から中高一貫教育を進めているが、その成果は非常に大きいと感じている。

・高校の魅力づくりのために、遠距離通学に対する支援、近隣市町村からの通う生徒に対するマイクロバスの運行、海外研修、予備校の講習参加支援、山村留学等の支援を町として行い、葛巻高校を存続させたいと取り組んでいる。全国の事例を参考にしながら、各自治体の取組や姿勢を受け止めて、再編計画を考えていただきたい。

【千田　岩手地区校長会副会長】（葛巻町立江刈中学校長）

・葛巻町では高校の魅力づくりの推進に関する協議会を町長が主催し、年２回開催している。より魅力的な学校づくりと将来を担う人材育成という二つの視点で成果、課題を確認しながら協議結果を予算要求へ反映させている。

・具体的な支援として８つある。スクールバスの運行、給食用牛乳の無料提供、希望者への有料給食（一食当たり 200 円）、各種検定への半額助成、受験対策夏季講習会、通学助成、ドイツ視察研修、山村留学である。結果として葛巻高校の保護者の負担額が３年間で 81 万円となっており、経済的負担が少ないことが葛巻高校を選ぶ最大の利点となっている。

【中田　葛巻町教育委員会教育長】

・葛巻町は県立の葛巻高校に対し、様々な形での支援を行っている。つまり、市町村が県立学校をより魅力ある学校にするために努力をしていることについて県教委も理解いただいていると思う。努力している自治体の願いに応えるような再編計画をお願いしたい。

【県教委】

・葛巻町の葛巻高校に対する手厚い支援については御礼を申し上げたい。県立高校と地域との連携では葛巻町の事例も参考にしながら具体的な意見交換をしていきたい。　（次頁に続く）

・学校規模の確保を優先し、再編した場合、通学が困難になる場合もあるので、教育の機会の保障の観点も踏まえながら考えていきたい。

【遠藤　八幡平市商工会事務局長】

・学校の魅力とは中学生、高校生、保護者、地域住民等、誰に対するものかによって市町村の関わり方が変わってくると思う。

・中学生アンケートを実施しているとのことであるが、中学生が進路について十分に答えることができるかどうか不安なところがある。海士町の事例では高校生、教員、地元住民等広くアンケートを実施しているのでそのようなことも必要ではないか。地域の小規模校の魅力づくりを考えるのであれば広くたくさんの人からの意見を聞きながら進めて欲しい。

【県教委】

・基本的方向の策定にあたり、平成 20 年 12 月に中学生対象のアンケートを実施した。今回のアンケートは県内の公立中学校に在籍している３年生を対象（165 校抽出率約 40%）とし、前回と同程度の規模で実施している。内容は卒業後の進路希望、希望する理由、希望学科、高校への通学（時間・距離）、卒業後の進路希望等である。

・地域検討会議では首長、産業関係者、ＰＴＡ関係者等から、意見交換会では広く地域の方から、そして、アンケートでは中学生から、広く意見を聞きながら再編計画を策定していきたいと考えている。

【川村　矢巾町ＰＴＡ連絡協議会副会長】

・不来方高校では、音楽部が定期演奏会や各種イベント、施設の訪問等を積極的に行い、地域に根ざした学校づくりに取り組み、町民から高い評価をいただいている。県内の各学校でもそのような取組みを行っていってほしい。

【遠藤　八幡平市教育委員会教育長】

・地域にとって魅力ある学校とは、地域住民、生徒等全ての人にとって魅力ある学校でなければならない。いかに地域に密着した活動をするのかが重要である。そのためには幼稚園、小中学校、福祉関係、企業関係等、全てと連携していくことが大事である。

・部活動の活躍で町が活気づくこともあるし、ボランティアで地域の人に感謝されたり等、地域全体に学校をアピールしていくことが大事であると思う。

・平舘高校の一つの特長として相撲部の活躍がある。これには地域の指導者、相撲協会、保護者育成会の応援の影響が大きい。高校の相撲部の活動に中学生、スポ小が参加することで、小中高が一緒に取り組む良い機会になっている。このような活動が地域との連携ではないかと考えている。スポーツだけでなく、その他のことについても、その地域にとってどのようにすれば魅力的な学校になるのか考えていく必要ある。

・平舘高校家政科学科の中にビジネス、ツーリストコースがあることは地域の人たちに余り知られていない。卒業後の就職先にどのような受け皿があるのかをしっかり把握し、進路先を確保しておく等の配慮も必要である。

・それぞれの市町村では各高校に対して、実態に応じた支援がされていると思う。

【岡田　八幡平市副市長】

・スキージャンプの競技人口は小学生から減少傾向にあるが、八幡平市には県で唯一のスキージャンプ台があり、特色ある学校づくりとして参考になるのではないか。

（次頁に続く）

・家政科学科の進路として、学科関連以外のところに就職が多いとのことであったが、これまでの経済の状況を踏まえると高校だけでは解決できない問題があるので、地方創生とからめて、地域、市町村と学校、県教委と協調しながら高校存続を考えていかなければならない。

【遠藤　岩手町教育委員会教育委員長】

・盛岡ブロックでは盛岡市内の普通科高校の学級数を削減し、定員を減らすことで回りの地域の高校へ生徒が流れるような配慮もあってもよいのではないか。

【県教委】

・周辺部の高校の定員を満たすために、中心部の高校の定員を絞るという意見は前回の再編計画でもあり、平成 17 年度に実際に実施した。その結果、中心部では大量の不合格者を出したが、周辺部の高校の定員は埋まらないという結果となった。

・中心部の高校の定員を絞ることで周辺部の高校の定員が充足するとは一概に言えないが、今後は県全体の生徒数も減っていくため、中心部の高校の学級数の調整についても総合的に考えていかなければならない。

・今回の再編計画は県立高校のもので私立高校の定員までは及ばないものであるが、私立高校とも十分に意見交換しながら進めていきたい。

【中田　葛巻町教育委員会教育長】

・進学でも就職でも生徒の希望をしっかりと実現できることが重要である。

・葛巻高校の平成 26 年度卒業生は 35 名中 25 名が進学で、国公立四年制大学へ６名が合格している。以前は約４割の生徒が盛岡市中心部の進学校へ親元を離れて進学していたが、近年は、大学進学や就職へしっかり対応してきたことから、町内の中学生の葛巻高校への進学率が７割程に増えてきており、中学生や保護者にとって葛巻高校の信頼度は高まってきていると思う。

・予備校の夏季講習会への参加費を葛巻町で負担する等、葛巻高校の大学進学への支援をしている。教育の質をもっと高めるために、中山間部の小規模校に対して県教委としても支援をお願いしたい。今後は学力をもっと向上させて医学部等へも進学できるようになってほしいと考えている。

【遠藤　八幡平市商工会事務局長】

・高校教育を考えるとき、大学進学率や就職率等、出口のことばかり考えるのは危険ではないか。資料にあるように自立した社会人としての資質を有する人財の育成を目指すことが重要である。

・ミスマッチ等で就職して１、２カ月ですぐ辞めてしまう生徒も多い。1～２年もかけて社会人として教育して、会社の柱となってもらおうと努力している地域企業も多い。

【中田　葛巻町教育委員会教育長】

・魅力ある学校の一つの切り口として出口の話をしたが、高校教育において人間教育は非常に重要と考えているので誤解のないようにしてほしい。

・葛巻高校を卒業し、首都圏へ就職した生徒に対して、毎年、町長や議長が企業訪問し、どんな生活をしているか、会社ではどんな人間環境の中でやっているか、人間としてしっかり成長しているかを確認している。企業からは協調性や責任感が強く、是非、また葛巻高校から採用したいといわれている。単に出口や成績のことだけを言っていることではないことを理解いただきたい。

【瀧澤　岩手町副町長】

・岩手町はホッケーを通して町づくりを進めている。昨年度、沼宮内高校の女子ホッケー部は部員が少ない中、努力し全国優勝したことは、小中学生にとってよい刺激となっている。国体も来るので、ホッケーが岩手町にあることを再確認したい。

（次頁に続く）

・普通科にこだわるのではなく、技術を磨くことも大切である。医療、福祉、介護の分野でかなりの人手不足である。例えば、県立の診療センターが沼宮内高校の隣にあるので介護科を設置し、そこで研修する等、様々な機関と連携していくことが重要ではないか。

【工藤　新岩手農業協同組合八幡平エリア統括部長】

・農業の中でも若い人を地域に残していきたいと考えている。地域の中では幼稚園、保育所、小中学校の教育の中で農業や企業体験を取り入れている。高校では就職するための勉強、進学するための勉強が中心になり、農業体験や企業体験が薄れてきているのではないかと思っている。

・高校再編では校舎制という形でも地域に高校を残し、若い人が地域のことをしっかり考え、地域に戻ってくるにはどうするかということを議論していく必要がある。

【久保　岩手町商工会事務局長】

・岩手町ではホッケーを前面に出し、小中高校で取り組んでおり、実績を上げてきているが、競技人口は少なくなってきている。今後は部活動の設置数も考えていかなければマイナー競技を維持するのは難しい。

・学業やスポーツだけでなく、学校推薦という形の入試制度の検討もお願いしたい。

【県教委】

・現状の高校入試制度では、スポーツ、文化において顕著な活躍をした生徒に対して推薦入試を実施している。スポーツ、文化活動で実績を上げた生徒は中学校長からの推薦で受け入れている。平成28年度入試からは推薦制度を拡大し、農業関係の後継者を目指す等、将来の職業に対する意欲の高い生徒も対象に実施する予定である。

【小澤　岩手町ＰＴＡ連合会会長】

・岩手町の中学生が盛岡市の高校を目指す理由は、制服に憧れたり、盛岡に通ってみたい、多くの人と接してみたい、周りに自慢したいというようなことが大きいと思う。高校に通いながら将来について考えていこうと考えている生徒が増えてきている。

・ホッケー部に魅力を感じている生徒は沼宮内高校へ行くが、特別な技術を身につけるような学科も必要ではないか。

・盛岡の高校は良い学校というイメージで憧れていると感じている。中学校と高校の交流の機会を増やし、高校生が中学生と接する時間がもっとあれば、高校のイメージアップに繋がるのではないかと考えている。

【中田　葛巻町教育委員会教育長】

・葛巻高校は、平成14年度から中高一貫教育を行ってきており、中学校と高校の連携は取れていると思う。部活動、ボランティア活動、芸術鑑賞、文化祭等で中学生と高校生が一緒に活動する機会がある。

中高一貫教育では中高の教員の兼務発令をして授業交流をしており、中学生が高校の教員の授業を受けることもあり、教員間の交流、生徒間の交流といった点で効果的である。これは中高一貫教育だからできるのではなく、それぞれの地域の中で考え、工夫していけば中高の連携は可能ではないかと思う。

【遠藤　八幡平市教育委員会教育長】

・葛巻町以外の市町村でも中高の連携は行っている。中高の教員がお互いの授業参観を行ったりしており、このような交流は非常に大事だと思っている。

（次頁に続く）

・出口の問題は非常に大事だと思う。企業側からは即戦力にならない、離職率が高い等と言われているので、企業のニーズに応じた、高校生の挨拶や態度等の指導というのも大事な面であると思う。
・平舘高校の離職率が低いのは、インターンシップ等での企業との連携がしっかり行われているためであると思う。企業との日常の連携を大事にしていく必要が有り、そのうえでの出口指導が大事であると思う。
・平舘高校相撲部には他県から２名入学しているが、卒業後については地域企業と連携しながら地元企業に就職するよう考えている。
・要請を受けて動くのだけではなく、高校側から積極的に地域に関わっていくということも必要である。積極的に活動することは地域にとっても、生徒にとっても良いことであると思う。その結果、地域の魅力向上にも繋がり、子ども達にとっても魅力ある高校となる。